

世界が幸せになるために

所属	静岡県立静岡中央高等学校	実践者	久保田 真代
対象	高校2年生以上(12人)	時間数	10時間(1コマ90分)
場所	教室	実践教科	現代文 A
ねらい	<p>テーマ【共生、貧困、豊かさ、幸福】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本とパラグアイの共通点や相違点を知り、価値観や文化の多様性に気づき、受け入れる心(態度)を養う。 ・課題を知り、原因を考え、今後皆が幸せに暮らしていくためにできることを実践できる。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1-4	(教科書教材「文化と理解」「幸せの分量」学習後) ○世界の国について知ろう！ ・世界地図に場所を書き込みながら、ワールドクイズ ・じゃがいもさんとおともだち ・世界の食卓【フォトランゲージ】 ・食料自給率、フードマイレージ【できることビンゴ】	『現代文 A』大修館 愛知県国際交流協会 ホームページ 『地球の食卓』写真 『地球の食卓学習プラン10』『フードマイレージ』開発教育協会 愛知県国際交流協会 ホームページ 教師海外研修の 写真や購入したもの
	5-6	○世界と日本のつながり、パラグアイと世界のつながりを知ろう！ ・大切なものアンケート ・世界と日本のかかわり ・パラグアイクイズ ・パラグアイ体験 ・どれが日本でしょう	教師海外研修の 写真、動画
	7	○パラグアイの課題、日本の課題を考えよう ・なぜ貧困に陥ってしまうのか【因果関係図】 ・翻って日本はどうなんだろう【因果関係図】【派生図】	教師海外研修の 写真、動画
	8	○課題解決に向けてどんな取り組みがあるのか知ろう！ ・小規模農家の自立を促すために【ロールプレイ】 ・実際の取り組み紹介	教師海外研修で いただいた資料、写真、動画
	9-10	○幸せとは？幸せになるためには？ ・「大切なものビンゴ」をしよう！ ・大切なものアンケートの共有 ・それぞれの思う幸せのかたちって？ ・幸せを阻むもの、幸せの条件【プレスト、ダイヤモンドランキング】 ・世界が幸せになっていくために、何ができるだろうか【できることビンゴ】	『グローバル時代の「開発」を考える』明石書店 教師海外研修での資料、写真
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・パラグアイという今までまったく知らなかった国と肯定的出会い、そこから世界の多様性にも気づけた。 ・そして国際理解について前向きに考え、授業に取り組んでいた。 ・世界のために出来ることを自分なりに考え、実践するきっかけとなった。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークが苦手な生徒への支援をどのようにするか、考える必要がある。 ・生徒の実態把握が不十分で授業計画通りに進まなかった。来年度以降はメリハリをつけて実践していく。それに付随して、生徒たちの考えを引き出す発問、資料内容を考えていく必要がある。 		
備考	この他、外国語科の科目「異文化理解」の時間(45分)をいただき、パラグアイクイズを実践した。		

[授業実践の詳細]

1-4 時限目「世界の国について知ろう!」

この時限のねらい

- ・世界にはたくさんの国があり、多様な価値観、多様な文化があることに気付く。
- ・グループワークに慣れ、自ら学んでいく態度を養う。

1 児童生徒の活動の流れ

① ワールドクイズ

- ・グループになり、国クイズに答えていく。該当国の場所を地図に書き込んだ。

② ジャがいもさんとおともだち

- ・1人1つジャがいもを取った。ジャがいもと友達になったと想定してジャがいものストーリーを考え、共有する。その後全員のジャがいもを混ぜ、その中から自分の友達(ジャがいも)を探した。
- ・世界は、かけがえのない存在で満ちていることを知った。

③ 世界の食卓から

- ・教材『地球の食卓』より、グループ人数分の国の写真を配布。一人一枚取り、写真の中の一人になりきって、写真の家族の自己紹介を行った。【フォトランゲージ】
- ・写真を見て気付いたことや感想をワークシートに記入。また担当の写真がどこの国か推測した。
- ・全グループの写真を全て黒板に貼り、「一週間ホームステイするならランキング」「豊かだと思う国ランキング」「幸せだと思う国ランキング」を個人で考え、グループで共有し、グループの結論を発表した。

④ 食料自給率とフードマイレージ

- ・グループ内で一人一つのメニューを担当し、ジグソー法でフードマイレージを共有した。
- ・食料自給率とフードマイレージの解説を聞き、日本のフードマイレージの高さを知った。その後、フードマイレージが高くなった背景をグループで考え、共有した。【因果関係図】 また、高いことのメリットデメリットをグループでまとめて共有した。【対比表】
- ・背景の解説を聞き、フードマイレージを下げるために自分には何が出来るのかを考え、表にまとめ、共有した。【できることビンゴ】

2 児童生徒の活動の成果・反応

- ◇ グループワークが苦手な生徒もいるため活動できるか不安であったが「少人数で話し合いをするのが楽しかった。」という感想も多く、前向きに取り組む姿勢が見られた。
- ◇ 「世界には色んな国があることを知った。」「日本は量より質や種類にこだわるのかも。」「日本は他国の影響を受けやすい。」「海外からの物が多く、無駄な所も多いのではないかな。」など、世界の多様さに気づき、課題解決の為に何が出来るのかを自分なりに考える姿があった。

3 使用した教材

- <教材1> 愛知県国際交流協会 各国資料 <http://www2.aia.pref.aichi.jp/koryu/j/kyouzai/kyouzai.html>
- <教材2> 開発教育協会 写真『地球の食卓—世界 24 カ国の家族のごはん』
- <教材3> 開発教育協会 『写真で学ぼう!「地球の食卓」学習プラン 10 改訂版』2017
- <教材4> 開発教育協会 『フードマイレージ どこからくる? 私たちの食べ物』2016

5-6 時限目「世界と日本、世界とパラグアイのつながりを知ろう！」

この時限のねらい

- ・日本は世界の様々な国とつながっていることに気が付く。
- ・パラグアイと肯定的に出会い、パラグアイへの興味関心を高め、パラグアイを身近に感じる。

1 児童生徒の活動の流れ

- ① 大切なものアンケート
 - ・アンケートを実施した。今後の授業では最終的に「幸せとはなにか・どういう状態のことか」について考えていきたいと説明を受けた。
- ② 世界と日本のかかわりを知ろう
 - ・国名カード、つながりの内容カード、つながりが作り出す現象カードを配布し、11カ国の組み合わせをグループで考えた。(パラグアイと日本のつながりのカードを独自に作成し、教材5に混ぜておく。)
 - ・答え合わせをし、簡単な解説を聞いた。
- ③ パラグアイを知ろう！パラグアイクイズ！
 - ・グループでパラグアイクイズ(三択)を解いた。正答と解説を聞きながら、実物を見たり触ったりした。
- ④ パラグアイ★プチ体験
 - ・チパやマンディオカチップスを食べ、マテ茶を飲んで、パラグアイの食文化を体験した。
- ⑤ どれが日本でしょう？クイズ
 - ・食事風景や学校の様子などの4枚の写真のうち、パラグアイはどれかをグループで考えた。(他3枚は日本の写真) その後、解説カードを読み、グループで共有した。

2 児童生徒の活動の成果・反応

- ◇ 生徒の知らない国も含まれていたためクイズに手こずっていたが、そのような国とも日本がつながっていることに驚いていた。良いつながりも悪いつながりもあることに気付いた。「あらゆるところで日本は世界とつながっていることを知った。」「日本の企業も色んなところに行っているんだなと思った。」
- ◇ パラグアイと肯定的に出会うことができた。日本との共通点を知り、また実際に飲食したり実物を触ったりすることで、身近な国としてとらえることが出来た。「パラグアイは知らない国だったけど、いつか行ってみたいくなった。」「日本食がパラグアイにもあって驚いた」



グループで協力してクイズに挑戦。→

←難しすぎたので、スマホ検索も一部許可しました。



3 使用した教材

- <教材5> 愛知県国際交流協会 国名&つながり カード
<http://www2.aia.pref.aichi.jp/koryu/j/kyouzai/PDF/katsuyo-manyual-2/siryu/H/2/2.pdf>
- <教材6> パラグアイクイズ パワーポイント資料
- <教材7> パラグアイで手に入れた物(茶葉、カップ、ボンビージャ、チパ、マンディオカチップス、ニャンドティ、アオポイ、硬貨や紙幣、本)
- <教材8> パラグアイでの写真(どれがパラグアイでしょうクイズ)
- <教材9> 写真の解説カード

7 時限目「パラグアイの課題、日本の課題について考えよう！」

この時限のねらい

- ・パラグアイにも日本にも課題があること、その原因や結果には共通するものがあることに気が付く。

1 児童生徒の活動の流れ

① なぜ貧困に陥ってしまうのか

- ・前回提示したパラグアイの情報から、都市と貧困層の写真を取り上げ、どういう写真なのか考えた。写真の解説を聞いた後、その原因は何かをグループで考えた。その後全体で共有した。【因果関係図】
- ・①を受けて、ではこのままではパラグアイはどうなってしまうかについて何人かの発表を聞いた。

② 翻って日本はどうなんだろう

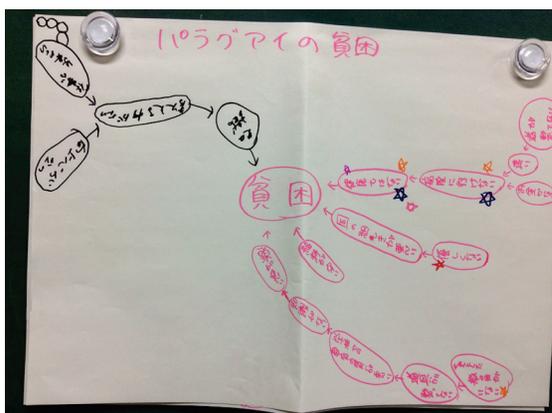
- ・「世界はグローバル化している」「パラグアイって大変な国だ」という感想が上がったのを受けて、日本はどうなのかを考える。
- ・いくつか意見を聞き、共通する部分があることに気付く。その中でも、①の写真と関連する日本の貧困について考えていくこととした。
- ・まずは日本における貧困の原因は何かをグループで考え、共有した。【因果関係図】
- ・その後、このままでは日本はどうなってしまうのかをグループで考え、共有した。【派生図】

2 児童生徒の活動の成果・反応

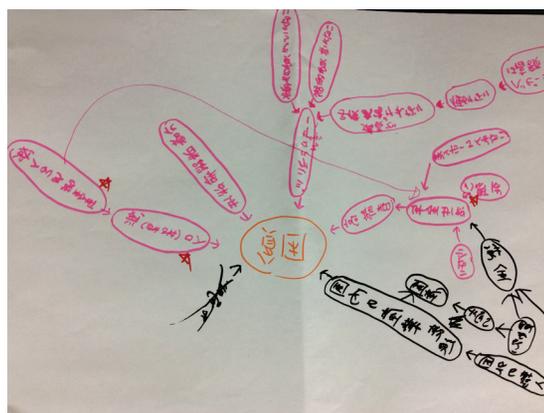
- ◇ やや強引に「貧困」というテーマに結びつけてしまった。そのため生徒にとって唐突で考えにくかったと思われる。さらに、様々な困難を抱えた生徒の多い本校で扱うテーマとしては配慮の必要なものであった。しかし「貧困がこの世からなくなれば良いのに」という感想からも、生徒たちは決して「貧困」を他人事とは思っておらず、どうにかしたいと願っている様子がうかがえる。
- ◇ ワーク内容が難しいようだったが、自分の知識や経験をもとに一生懸命考えていた。パラグアイの派生図を考える予定であったがやりきれず、消化不良をおこしてしまったと思う。

3 使用した教材

<教材8・9> 前回使用したものと同じ



<パラグアイの貧困 因果関係図>



<日本の貧困 因果関係図>

8 時限目「課題解決に向けてどんな取り組みがあるのか知ろう！」

この時限のねらい

- ・課題解決のために何が必要なのか、何ができるのかを皆で考える。
- ・課題解決に向けて、実際に行われている活動を知る。

1 児童生徒の活動の流れ

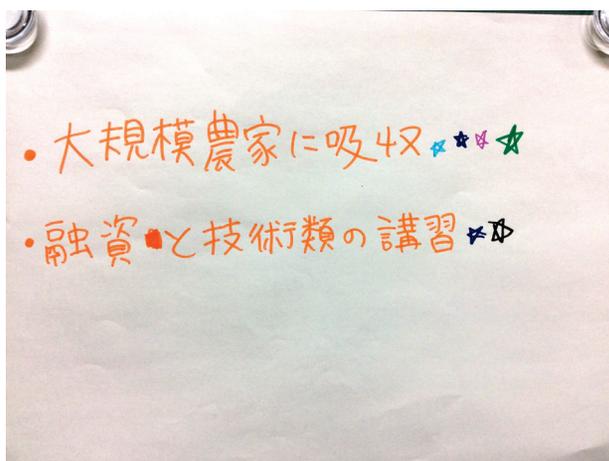
- ① 小規模農家の自立を促すために
 - ・パラグアイで貧困に陥っている小規模農家の話を受け、彼らの自立を促すためには具体的にどうしたら良いのか考えた。
 - ・「どうしたら悪循環から抜け出せるだろうか？何があったら？」との問いかけ、小規模農家、金融公庫職員、行政機関(国)の職員の3つの立場で考えた。【ロールプレイ】
 - ・グループで出た支援案を全体で共有した。
- ② 実際の取り組み紹介
 - ・実際に、パラグアイで行われている取り組み事例の紹介を受けた。(青年海外協力隊、株式会社わだまんサイエンス、白沢商工株式会社、カテウラ音楽団)

2 児童生徒の活動の成果・反応

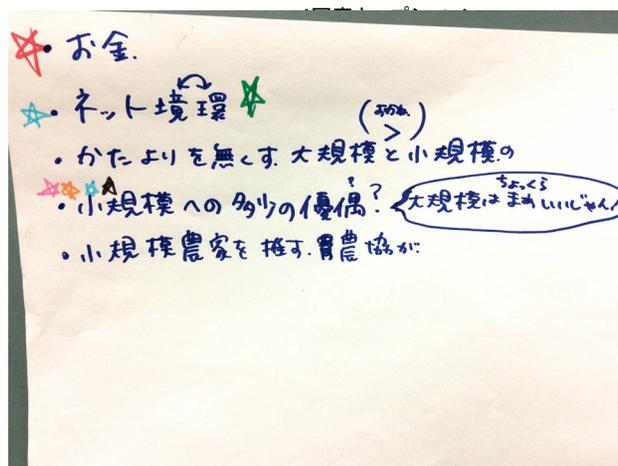
- ◇ 行政機関の立場は身近ではないので考えるのが難しいようだった。話し合いの中で、徐々にアイデアが浮かんできたようだった。また、すぐに解決できるものではないことに気付き、どうしたらよいかグループで悩む姿も見られた。
- ◇ 「グループで出た案にも長所短所があって、根本的に解決するのは難しいと感じた」「意識(考える)って大切だと感じた。何もしないより行動する。」「現地に行くことでわかることがある。」「国だけでは限界があって、遠い日本から助けに行く人たちがいる。すごいと思う。」

3 使用した教材

- <教材10> ロールプレイ用役割カード
- <教材11> 取り組み事例紹介のパワーポイント



<支援案①>



<支援案②>

9-10 時限目「幸せとは？幸せになるためには？」

この時限のねらい

- ・幸せとは何かを考え、その多様性に気付く。
- ・世界が幸せになるために、自分(たち)には何が出来るのかを考え、実践していく。

1 児童生徒の活動の流れ

- ① 「大切なものビンゴ」をしよう！
 - ・事前に「大切なものビンゴ」のマス目を埋めてくる(家族や友人、周りの人に聞いてくる)。それを使い、パラグアイでのアンケート結果と照らし合わせてビンゴゲームをした。
 - ・マスが空かなかったものをクラスで挙げた。(=日本とパラグアイで異なるものの確認)
- ② 大切なものアンケートの共有
 - ・①を踏まえ、パラグアイのアンケート結果と生徒のアンケート結果を共有した。国や環境が違っても、共通するものがあることに気付いた。
- ③ それぞれが思う幸せの形って？
 - ・「自分が幸せを感じる時」を10個考えた。その後、「自分が幸せを感じるために必要なモノ・コト」を10個考え、グループでグルーピングしながら共有し、さらに全体で共有した。自分の幸せの形と他者の幸せの形に、共通点と相違点があることに気付いた。
 - ・ブータンの国民総幸福量の9つの指標を見て、自分たちの挙げた「モノ・コト」がどれに当たるかを話し合った。
- ④ 幸せを阻むモノ、幸せの条件
 - ・幸せの条件とは何か、①～③を振り返り、クラスのメンバーが考える幸せの条件を9つに絞った。
 - ・9つの条件を、大切だと考える順に個人でランク付けした。その後、グループで意見をまとめて一つのランキングを作り、全体で共有した。【ダイヤモンドランキング】
 - ・<教材13>の抜粋部分を読み、9つの条件を邪魔するモノ・コト(幸せを阻むモノ、幸せな状態を困難にするモノ・コト)をグループで出し合い、全体で共有した。【プレーンストーミング】
- ⑤ 世界が幸せになっていくために、何が出来るだろうか
 - ・世界にはたくさんの「幸せの形」「幸せの条件」がある中で、そしてそれを阻害するモノ・コトがある中で、誰もが(多くの人々が)幸せを感じられる世界を実現するためには、何が出来るかを考えた(フードマイレージ、貧困、以前紹介した活動も振り返って)。【できることビンゴ】

2 児童生徒の活動の成果・反応

- ◇ 「幸せ」という難しいテーマについて、悩みながらも熱心に考えていた。価値観は多様であり、だからこそ他人の立場に立つこと、それを踏まえて自分がまず行動することの大切さを感じていたようである。
- ◇ 「皆が幸せになるためには、誰もが誰に対しても優しくする。」「幸せの価値観は人それぞれ。だからその“幸せ”がぶつかってしまうこともある。困ったなあ。」「まずは小さなことから実践していく。人の差別はしない！」

3 使用した教材

<教材12> 大切なものアンケート結果(日本とパラグアイ)

<教材13> 西あい・湯本浩之編著『グローバル時代の「開発」を考える——世界と関わり、共に生きるための7つのヒント』2017年、明石出版

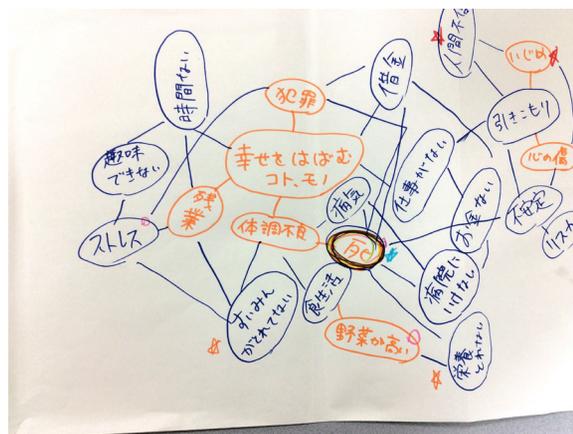
■ 全体を通して

1 授業の様子

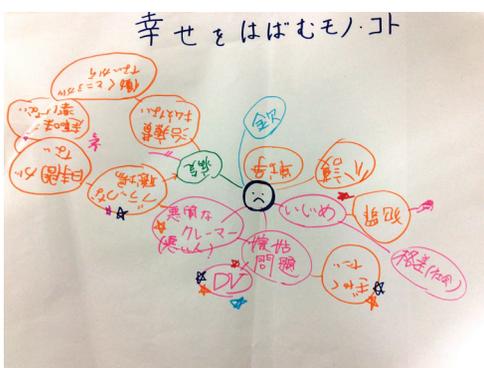
- ・様々なバックグラウンドを抱える生徒たちに、貧困や幸せについて考えてもらうことへの抵抗が私の中にあつた。しかし、生徒たちは一生懸命授業に取り組んでいた。彼らの抱える困難さは、社会の抱える困難さである。この社会がよいよい方向へ進むために、私が出来ることは何かを考えて実践していきたい。
- ・また、コミュニケーションが苦手な生徒も多く、どうなるか心配だったが杞憂に終わった。「グループワークが楽しい。他国どこかクラスのお隣さんとも一年話さないこともあるので、話し合いながら行う授業は楽しかった。」という感想が挙がったことに、素直に嬉しさを感じる。同時に国際理解にたどり着く前の、身近な所から意識や授業を改善していく必要があると感じた。



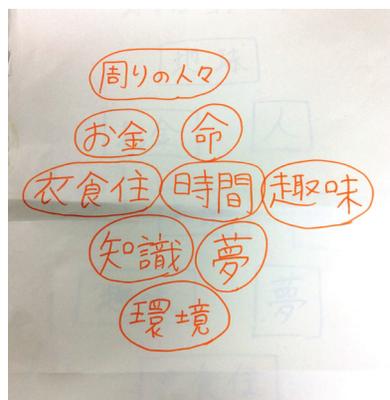
<グループワークの様子>



<幸せをはばむモノ・コト>



<幸せを阻むモノ・コト②>



<ダイヤモンドランキング>

2 参考文献・資料

- 1) 『現代文 A』 2016 年 大修館
- 2) 朝日新聞グローブ 2017 年 12 月 3 日 通巻 200 号
- 3) 『豊かさと開発』 2016 年 特定非営利活動法人 開発教育協会 (DEAR)